

ベスト・シーニックバイウエイズ・プロジェクト2024

第24回 シーニックバイウエイ北海道推進協議会

令和8年3月25日



平成20年度よりシーニックバイウェイ北海道の推進に向けて、他の模範となるルート活動であり、将来への発展性が高く評価できる取り組みを選出し表彰する「ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト」の取り組みを実施。

2023

サスティナブルな景観づくり
マスタープランの再構築と実施
(釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ)

最優秀賞



2022

自転車ツーリング事業
「自転車」をキーワードとする協働のまちづく
(萌える天北オロロンルート)

最優秀賞



2021

～知らなきゃ損！2人目が無料～
「ふたりぼっちパスポート」事業
(十勝シーニックバイウェイ・トカプチ雄大空間)

最優秀賞



2020

～景観阻害物を撤去して再利用！～
景観向上に向けた雑木伐採と資源のリユースプロジェクト
(支笏洞爺二セコルート)
オロロンライン・サイクリスト応援プロジェクト
(萌える天北オロロンルート)

最優秀賞

最優秀賞



2019

～「はこだて花かいどう」での一年を通じた継続的な取り組み～
函館新道「花いっぱい活動」及び「シーニックdeナイト」
(函館・大沼・噴火湾ルート)

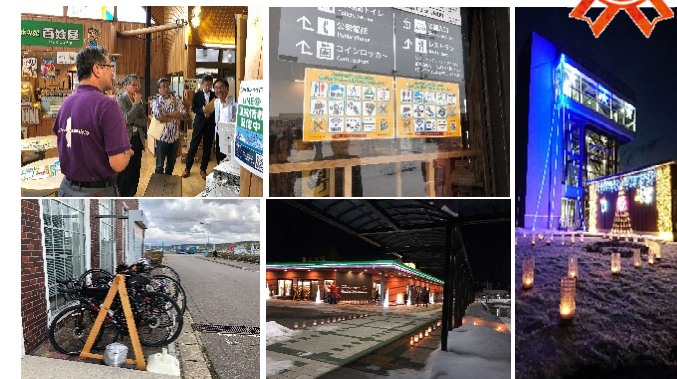
最優秀賞



2018

どうなん道の駅連携事業
(どうなん・追分シーニックバイウェイルート)

最優秀賞



<表彰>

●活動団体賞 1 件（指定・候補ルートを対象） 【エントリー数 14件】

●部門賞 3 件（指定ルートを対象）

<エントリー部門>

美しい景観づくり賞 【エントリー数 2件】

活力ある地域づくり賞 【エントリー数 6件】

魅力ある観光空間づくり賞 【エントリー数 5件】

※部門賞は、部門毎に 1 件とし最大 3 件とするが、評価の結果によってはこの限りではない。

●最優秀賞「ベスト・シーニックバイウェイ・プロジェクト2024」1 件（指定ルートを対象）
部門賞の中から 1 件選出（評価の結果によってはこの限りではない。）

<評価の視点>

地域の資源を発見・活用し、有形・無形の「新しい価値」を生み出しているか否かに評価の軸を置くと共に、以下の点に留意し、プロジェクトの評価を行う。

－部門賞及び大賞－

- 持続性（取組の継続性の程度を評価）
- 浸透性（地域内への広がり程度の評価）
- 拡張性（モデルケースとしての地域外へ展開の程度を評価）
- 連携性（地域同士や他団体との連携の程度を評価）
- 先進性（新しいものに取り組んでいく姿勢の程度を評価）
- 効果性（定量的・定性的な効果の程度を評価）
- 人材育成

▼各賞決定までの流れ

募集開始



各ルートから活動の応募



■ 活動団体賞

各ルートによる投票

- ※対象：指定及び候補ルート
- ※自ルート以外に、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを活動団体賞として選出



■ 部門賞、最優秀賞

アドバイザー会議にて審査

- ※対象：指定ルート
- ※アドバイザー会議委員が、持ち点10点を自由配点
- ※最多得点を得たプロジェクトを部門賞候補として選出
- ※選出された部門賞候補から最優秀賞を選出



推進協議会にて活動団体賞、部門賞及び最優秀賞を決定

活動団体賞候補〔エントリー 14件〕



部門	No.	ルート名称	活動名称	点数	主なコメント
景観づくり 美しい	①	支笏洞爺二セコルート	学官地域連携によるビューポイント魅力アッププロジェクト	12	大学生にシーニックバイウェイの活動を理解していただける事そのものがシーニックバイウェイの未来への繋がりと思います。
	②	東オホーツク シーニックバイウェイ	R243シラカバ並木の清掃・剪定活	13	地道な景観改善活動が評価できる。 景観に配慮した、いい取り組みだと素直に感じたため。
活力ある地域づくり	③	宗谷シーニックバイウェイ	シーニックバイウェイの広域連携をベースとした地域連携DMOの設立	21	シーニックの特長である、広域連携の活動がDMOのベースになったこと。若手の話す場などは非常に良い取り組み。先進事例を知るため、現地視察をするなど時間をかけ一つずつステップを踏みながら進めたことが良かったと思う。
	④	釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウェイ	地域の歴史を活かしたヒストリックバイウェイの活動	15	人的ネットワークの交流からヒストリックバイウェイ、風景街道へと地域連携が実を結び素晴らしい。 過去だけではなく今の歴史も編み込んでいるんだなあと思います！
	⑤	函館・大沼・噴火湾ルート	心象風景・地域の象徴としての「灯台」利活用プロジェクト	8	「灯台」という地域資源を活用した継続的な取組が道だけではなく海も繋がる感じ。
	⑥	萌える天北オロロンルート	みちをきっかけとした学生支援プロジェクト	14	学校存続に繋がっていることや地域への愛着や誇りを持った取組が地域の活力に繋がっていくと感じた。
	⑦	天塩川シーニックバイウェイ	松浦武四郎を学び発信し交流することでの地域活性化	13	天塩川は知っているようで知らない、歴史が深い地域と感じる。歴史上の人物がいること自体が地域資源であり価値があると感じられる取組み。
	⑧	空知シーニックバイウェイ -体感未来道-	そらち「道の駅」×「シーニックバイウェイ」 スタンプラリー ソラ★スタ	15	道の駅とSBWが連携し、管内全市町が同じ目標に向かって事業実施していることに感服しました。経済への波及効果も出ており、更にデジタル化にもチャレンジしていることは素晴らしいと思います。
魅力ある観光空間づくり	⑨	東オホーツク シーニックバイウェイ	R334オオイトドリ刈る狩る作戦	20	冬のガードレール雪かきなども行われており、一年をとおして「秀逸な道」の景観を味わってもらおうとの取り組みがよい。さらに自転車通行やヒグマ対策という副次的な効果もあり、地域のさらなる理解も考え、新聞折込で開催日を広報しているところなども素晴らしい。
	⑩	釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウェイ	ひがし北海道「より道」トクするQR	3	WEBページでの情報提供の工夫(無限容量・外国語翻訳機能)が良い。
	⑪	札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山溪ルート	魅力発掘・情報発信プロジェクト	3	新たな世代、地域とのかかわりはこれから大事であると思う。
	⑫	どうなん・追分 シーニックバイウェイルート	地域資源を活用した共創による魅力向上	1	活動が具体的。
	⑬	知床ねむろ北太平洋 シーニックバイウェイ	ひがし北海道の新しい旅のカたちづくり事業	22.5	エコモビリティから始まり、レンタサイクルツアーなど成果が見え始めている。JR花咲線と平坦な根釧原野をうまくコラボさせたサイクルツーリズムの推進は他ルートの参考になるものである。自転車のみならず、フットパスや地元食材を楽しめるプログラム等、地域と共存するコンテンツが充実している。
	⑭	日高シーニックバイウェイ	鶴川沙流川サイクリングコース走行会	9.5	自動車でのドライブ以外の移動と言う視点で、今後シーニックバイウェイができる活動のいくつかのアイテムが絞り込まれていく最初の取り組みかと思います。

活動名称 ひがし北海道の新しい旅のカタチづくり事業

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

- ・通年でサイクリングやフットパス等の観光コンテンツの創出・検討
 - ・花咲線や路線バス等の地域公共交通の活用
- これらを通じて地域の観光資源を掘り起こし、広域連携による「新しい旅のカタチ」創出を図り、地域活性化を目的とする。

●活動内容：

- ・観光コンテンツの創出および試行、関係者との意見交換会等の実施

●活動期間：

令和元年度～ フットパスの維持管理、新規フットパスの試行、フットパスを活用したサイクリングの試行 など

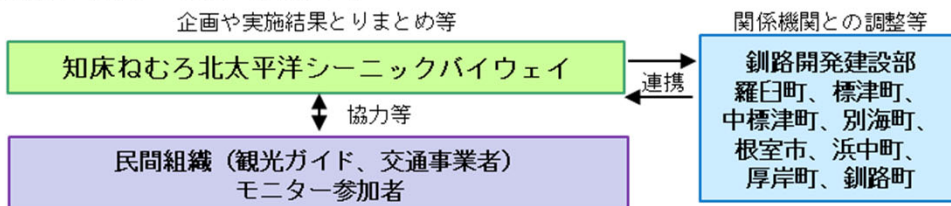
令和6年 6月30日 ねむろエコモビたび

令和6年12月 1日 レンタサイクル・日本本土最東端サイクリング認定証発行事業

令和7年 2月18日 冬季観光コンテンツ造成事業

②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等



③PRポイント

【創意工夫した点や苦勞した点】

- ・鉄道や路線バスとの「輪行」がしやすい折りたたみ自転車を活用し、地域の観光資源と連携することで気軽にサイクリングが楽しめる仕組みを検討・試行。
- ・「本土最東端」というこの地域ならではの特性を活かしたコンテンツを構築。

【活動による効果】

- ・試行や意見交換会を通して、新たなコンテンツ造成案など、当該エリアの可能性を再認識でき、今後の継続した活動が見込まれる。

【令和6年度の活動概要】

- 6月30日 ～折りたたみ自転車×根室交通×JR花咲線×手ぶらでキャンプ＝ねむろエコモビたび～



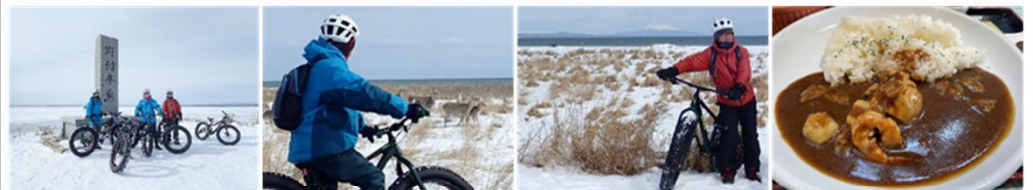
路線バス（根室駅～別海町奥行日）→サイクリング→手ぶらでキャンプ
【昼食：BBQ】→サイクリング→JR花咲線（厚床駅～根室駅）

- 12月1日 レンタサイクル・日本本土最東端サイクリング認定証発行事業



サイクリング（根室駅～納沙布岬）→ノツカマップ灯台・ヨンネモトチャシなどに立ち寄り本土最東端納沙布岬へ→路線バス（納沙布岬～根室駅）

- 2月18日 冬季観光コンテンツ造成事業



別海町 野付半島サイクリング（根室海峡、野付湾、水平線、シカなどの野生動物、国後島を眺めながらライド、野付半島ネイチャーセンターで昼食）



標津町 ポー川史跡自然公園スノーシュートレッキング（ポー川、標津湿原、復元された竪穴式住居等の史跡を巡るトレッキング）

部門賞① 美しい景観づくり部門候補〔エントリー 2件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名【ルート名】	点数	評価意見
1	地域連携によるビューポイント魅力アッププロジェクト 【支笏洞爺二セコルート】	43	<ul style="list-style-type: none"> ・「秀逸な道」を基軸に据えたこれまでの諸活動の集大成。活動や担い手の広がりなど評価できる。「秀逸な道」の単なる指定にとどまらずに、活動全体を連携させて再加速している点が他へのモデルともなりうるのではないだろうか。 ・産官学連携の枠組みを有効に活用して、視点場の設置にとどまることなく、マーケティングや検証、学生による研究・提案等多角的に秀逸の道についての研鑽活動を実施していることは評価できる。PDCAサイクルを回し質の高い沿道景観の維持管理を目指していただきたい。 ・地域の観光拠点である二セコエリアにおいて、地域住民・行政・大学が一体となってビューポイントの整備と魅力化に取り組む姿勢に感銘を受けた。とりわけ、景観診断を起点としたPDCAサイクルの導入や、学生が地域に足を運びながら提案・実装まで関与している点は、地域との対話を重視した観光づくりの模範的な形であると感じた。現場視点でも、観光客が「立ち寄りたくなる」「滞在したくなる」場所づくりが意識されており、地域の回遊性と滞在時間の向上につながるプロジェクトであると感じている。 ・「秀逸な道」カードや大学との連携などによる周知を図る取組は評価される。しかし、かなり限られたポイントにとどまるのが今後の活動ポテンシャルの維持・発展につながるのか疑問もある。 ・大学生を含めた多様な参加主体からなる活動で、若い人の巻き込みやDNS活用を行っている点が評価できる。「秀逸な道」カードの活用もユニーク。 ・学官地域連携スキームを構築し、ビューポイントパークの維持管理、オープンカフェ、景観診断、秀逸な道カードによる周知等、多岐に亘る活動を組み合わせたPDCAサイクルを実現している点が評価できる。
2	R243シラカバ並木の清掃・剪定活動 【東オホーツクシーニックバイウェイ】	27	<ul style="list-style-type: none"> ・「秀逸な道」を中心とした大きな規模の活動である。地道ではあるが意義の大きな活動に感謝したい。 ・16kmにも及ぶ白樺並木の維持活動には敬意を表す。多くの賛同者の輪を広げていくことは大変であるが地道な活動を応援したい。さらにこの先の未来を創造し、並木道のあるべき姿や、新たな関心層を巻き込む活動、維持管理にとどまらず今後の展開についても議論を始めていただければと思います。白樺の寿命を念頭にした未来計画を期待したい。 ・自然景観の象徴とも言えるシラカバ並木を、地域ぐるみで継続的に保全している姿に、深い地域愛と責任感を感じる取り組み。約16kmにもわたる景観区間を複数年に分けて丁寧に整備している点からも、無理のない継続的な地域協働の体制が構築されていることがうかがえる。旅行者の立場としても、車窓から眺める連続した並木景観は旅の印象に強く残る重要な資源であり、視覚的な満足感に加え、地域の丁寧な手仕事で旅の記憶価値を高めているように感じた。 ・たくさんの人たちが参加し、地域の看板である道を育てる取り組みは素晴らしい。維持・管理にかかる費用の地域循環するような工夫があってもよいと思う。 ・活動目的が明確で、継続的に参加できる体制を構築している点が評価できる。 ・地域の方々が無理なく関われる仕組みを構築している点を評価できる。地域のシンボルロードとしてこれからも継続してほしい。

活動名称

～地域のシンボル(羊蹄山)の眺望を守る・整える・育む～
学官地域連携によるビューポイント魅力アッププロジェクト

エントリー部門

美しい景観づくり

ルート名称

支笏洞爺ニセコルート

①活動概要(目的・目標、具体的な取り組み等)

- 活動の目的・目標：
 - ・地域団体と道路管理者が協働で魅力ある道路景観の保持・改善を推進する「秀逸な道」区間に設置されているビューポイントパーキングにおいて、優れた「眺望」を楽しんでもらうための「視点場」の魅力向上に向けた検討や試行を実施し、ビューポイントパーキングでの滞在時間の増加や快適性の向上、利用シーンの多様化を目指す。
 - ・北海道科学大学と地域の団体・道路管理者等が連携し、ベンチや花壇、案内看板等のビューポイントパーキング付属施設について、デザイン検討・製作等を行う。
- 活動内容：
 - ①ビューポイントパーキングの維持管理活動(草刈・清掃等)：毎年6～8月
 - ②現地看板の設置による地域情報の提供と効果検証：毎年6～10月
 - ③道路空間を利用したオープンカフェ ※道路協力団体制度の活用：毎年5～10月
 - ④「秀逸な道」カードによる現地来訪&周遊促進に向けた試行：R5年度～
 - ⑤「秀逸な道」を対象とした現地ヒアリング・景観診断調査：毎年6月、9月
 - ⑥北海道科学大学との連携によるビューポイントの魅力アップ検討と試行：R6年度～
- 活動期間：令和2年度(2020)～令和6年度(2024) ※継続・拡大展開中
- 実施場所：ニセコ羊蹄エリア：「秀逸な道」区間 (VPP 3箇所)
(倶知安町八幡、京極町更進、喜茂別町相川の各VPP)

②活動の体制 学官地域連携スキーム

- ・シーニックバイウェイ北海道 支笏洞爺ニセコルート(地域活動団体)
 - ・北海道科学大学 (工学部建築学科/未来デザイン学部)
 - ・国土交通省 北海道開発局 小樽開発建設部
 - ・(一社)北海道開発技術センター
- ※プロジェクトの推進にあたり、ルート(地域活動団体)・北海道科学大学・小樽開発・decの四者間において随時、情報共有を図ることとする。



③PRポイント

- 【総意工夫した点や苦労した点】
- ・2017年(H29)の〈電線見えない化〉の継続・発展系として、PDCAサイクルによるビジョンの明確化、プロセスの共有を徹底し、継続的な魅力アップに寄与している。
- 【活動による効果】
- ・SNS利用者に「秀逸な道」カードが投稿され、現地来訪・周遊促進に寄与している。
 - ・このプロジェクトを担う地域活動団体(喜茂別・京極・倶知安)が3年連続で「みどりの愛護」功労者国土交通大臣表彰を受賞し、活動継続のモチベーション向上に繋がった。
 - ・学生には、ビューポイントでアイデアを形にできる貴重な機会となり、地域活動団体や行政には、若い世代にシーニック活動を知ってもらう機会の創出に繋がる。

ビューポイント魅力アップに向けた具体例 美しい景観づくりの継続的・拡大展開に向けたPDCAサイクル



部門賞② 活力ある地域づくり部門候補〔エントリー 6件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名【ルート名】	点数	評価意見
1	シーニックバイウェイの広域連携をベースとした地域連携DMOの設立【宗谷シーニックバイウェイ】	21	<ul style="list-style-type: none"> ・長年の継続的な努力が結実した記念碑的プロジェクト。観光の組み込みとそのマネタイズがSBWのみならず地域経済にとってもますます重要となるので、DMOをSBWが中心になって設置できたことは意義深い。弾みをつける意味でも賞を差し上げたい。 ・シーニックバイウェイ参加団体が連携し、DMO結成に向けた協議をしている点に期待したい。ワンストップ窓口の設置や域内の情報共有、ブランディング、マーケティングなど、オール宗谷の取り組みの発展を祈念する。 ・地域間での連携構築は容易ではないが、十数年にわたる信頼関係の蓄積をもとにDMOの正式登録まで至ったプロセスは、観光地域づくりの成功事例として極めて貴重であると感じた。旅行事業者の立場からは、広域的な情報共有と商品造成の土壌が整うことで、旅行者への提案の幅が大きく広がると実感している。特にナショナルサイクルルート等の先進的な視点も取り入れている点に、今後の国際的な展開可能性も感じさせられた。 ・多様な主体、多様な活動があるなかでDMOが設立されるというのは、これまでの成果として素晴らしい。組織は調整と機動力が役割だと思うので、今後を期待したい。 ・永年にわたる粘り強い活動の成果として、地域連携DMOを設立したことは、他のルートの見本となるもので、大いに評価できる。
2	地域の歴史を活かしたヒストリックバイウェイの活動【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】	14	<ul style="list-style-type: none"> ・とがったコンテンツを掲げ、新たな客層に向けた活動として評価できる。歴史的価値をどの層に向け発信し、来場者をもてなすのか、マーケティング戦略を構築し展開してほしい。 ・歴史的人物の顕彰を通じた地域資源の再評価が丁寧に行われており、教育的観点からも意義深い取り組みであると感じた。地域間の文化的連携にも発展している点に可能性を感じた。標柱の再建や姉妹ルートの盟約締結など、歴史の再解釈を現代の交流資源として活用しており、観光としてストーリーテリングが非常に重要視される体験型や教育旅行との親和性も高いと感じた。 ・歴史への着眼は長い年月をかけて素晴らしい道づくりにつながるとは思います。内外に訴えかけるインパクトに工夫が必要。 ・標柱を再建するとともに、地域教材の作成、幅広い地域間連携活動を行っている点が評価できる。 ・永山在兼氏の偉業を基にした「人で繋がるSBW」という魅力的な取り組み。地域学習教材の作成と標柱再建というソフト・ハード両面にわたる活動により地域の歴史的資源を発掘し磨いている。ヒストリカルシーニックバイウェイの模範となる活動として高く評価できる。
3	心象風景・地域の象徴としての「灯台」利活用プロジェクト【函館・大沼・噴火湾ルート】	8	<ul style="list-style-type: none"> ・灯台という古くて新しい観光資源の位置づけをSBWにおいて実践。佐々木哲夫さんへの感謝を込めて。 ・「灯台」という一見道路とは縁のなさそうなコンテンツをクローズアップし、ここから見える地域の風景や物語を再認識するという発想に興味を持った。灯台巡りのルートとしてさらなる磨きをかけてほしい。 ・地域固有の資源である灯台に焦点を当てた視点が新鮮であった。現地視察や専門家による意見交換を重ねる中で、丁寧に価値を見出そうとする姿勢が伝わってきた。地域に根ざした空間体験の創出は、現地に足を運ばなければ得られない「旅の動機」にもなり得ると感じる。 ・灯台の町の企画はよいと思うが、どう人に来てもらうかの企画の突っ込みを見てみたい。 ・心象風景としての「灯台」に着目し、域内の周遊促進を図ろうとする取り組み。地域固有の資源としてのポテンシャルが高く、今後の展開が期待される。
4	みちをきっかけとした学生支援プロジェクト【萌える天北オロロンルート】	6	<ul style="list-style-type: none"> ・地域コミュニティの核となる「学校」の存続をテーマとして、シーニックバイウェイを活用するというユニークな取り組みである。つながる道を活用し地域の取り組みとしての広がり期待したい。 ・学校の減少や人材流出といった地域課題に対し、観光を通じた教育支援というアプローチで取り組んでいる点が極めてユニークであると感じた。特に、地元と外部学生との橋渡し役としての機能を果たすルートの存在は、着地型教育旅行の受け入れ基盤としても今後注目すべき事例であると感じた。 ・学びの機会の空洞化に着目し、多様な活動を行っている点が評価できる。
5	松浦武四郎を学び発信し交流することでの地域活性化【天塩川シーニックバイウェイ】	4	<ul style="list-style-type: none"> ・古きを訪ね新しきを知る。松浦武四郎の足跡を沿道沿いで追いながら、地域のアイデンティティを再認識する。風景（シーニック）と歴史（ヒストリー）をしっかりと見せる工夫やアイデアに期待する。 ・歴史資源を通じた地域アイデンティティの形成が丁寧に行われており、地道な活動の積み重ねによって交流の輪が着実に広がっているように感じた。地域の歴史的人物を軸に、教育・交流・観光をつなぐ取組であり、地域資源を物語化して活用する好事例であることは間違いないが、道外自治体や専門機関との連携も確立されており、観光の現場から見ても、地域の深い魅力を伝えるコンテンツとして価値が高いと感じた。 ・これまでの取組の磨き上げと講座としての総合化、学生キャンプなどわかりやすいアプトブットがほしい。
6	そらち「道の駅」×「シーニックバイウェイ」スタンプラリー ソラ★スタ【空知シーニックバイウェイ-体感未来道-】	17	<ul style="list-style-type: none"> ・周遊を通じて空知を体感しそれを地域経済につなげるインパクトある活動。成果の計測にも優れていて、大きさが理解できた。 ・空知の知名度アップと、滞在価値の演出のご苦労は察するところである。札幌や旭川圏内に隣接する利点を生かし、空知ブランドの構築に向け地道ではありますが、継続した活動になることを期待します。 ・管内24自治体すべてを巻き込んだ合意形成の努力に敬意を表したい。地域間の連携構築と観光誘導を両立させる取り組みとして、今後さらに発展していくことは間違いないと思った。地域を「点」ではなく「面」で旅してもらう工夫が随所に見られ、旅行会社としても回遊型商品造成のヒントになる取り組みであると受け止めた。 ・関連事業者から予算を集めて実施する点で持続性が期待できる。これを機に24市町村の活動プラットフォームでできることを期待したい。 ・長年かけ、全市町が参加し、多くの参加者、経済効果をあげている点が大いに評価できる。 ・タンブラリーを通じて道の駅空白エリアを含む全24市町を繋ぐ連携の意義は少なくない。経済効果を意識している点も評価したい。

活動名称

シーニックバイウェイの広域連携を
ベースとした地域連携DMOの設立

エントリー部門

活力ある地域づくり

ルート名称

宗谷シーニックバイウェイ

①活動概要

●活動の目的・目標

平成14年をピークに観光客の減少が続いていた北宗谷では、問題解決のためには商圏内の連携による取り組みが必要であった。そこで、これまで無かった新たな連携の仕組みとして「シーニックバイウェイ制度」を導入し、ルート運営の基本である「観光空間づくり」を軸に据え、「地域づくり」や「美しい景観づくり」と連動させながら、観光の再生を目指した。

●活動内容：

平成17年～ 広域連携の基礎づくり

これまで一度も実施されていなかったルート内の「観光協会長サミット（民間）」を開催し、地域共通の課題を抽出するとともに、連携した取り組みを開始した。さらに、シーニックバイウェイ観光分科会を母体として、事業を展開するための「北宗谷広域観光推進協議会」を設立。首都圏や中部圏に向けたトップセールスや合同キャンペーンを実施し、観光案内所間の情報交換および情報発信も行った。



第1回観光協会長サミット
平成17年2月25日開催

平成26～28年 連携の強化・拡大

新たな取り組みとして、インバウンドに関する勉強会を実施したほか、観光に関心を持つ若手を中心としたワークショップ「しゃべり場」を、宗谷エリアの今後の観光を考える場として各地で開催した。さらに、先進事例から学ぶため、スイスを視察し、アドベンチャートラベル(AT)、スイスモビリティ(サイクルツーリズム)、DMOの取り組みについて学習した。



しゃべり場 in 礼文
平成27年5月1日開催



スイスへの視察
平成27年10月

令和元年～ DMO登録

北宗谷広域観光推進協議会を解散し、地域連携DMOの設立に向けて、宗谷シーニックバイウェイで培ったノウハウを活かしながら準備を進めた。ナショナルサイクルルートの指定に向けた取り組みの一環として、先進地である熊野古道を視察し、また台湾のサイクリストとのコミュニティづくりにも着手。こうした取り組みを経て候補法人期間を終え、令和6年3月に正式登録を果たし、持続的な観光地形成に向けた新たな一歩を踏み出した。



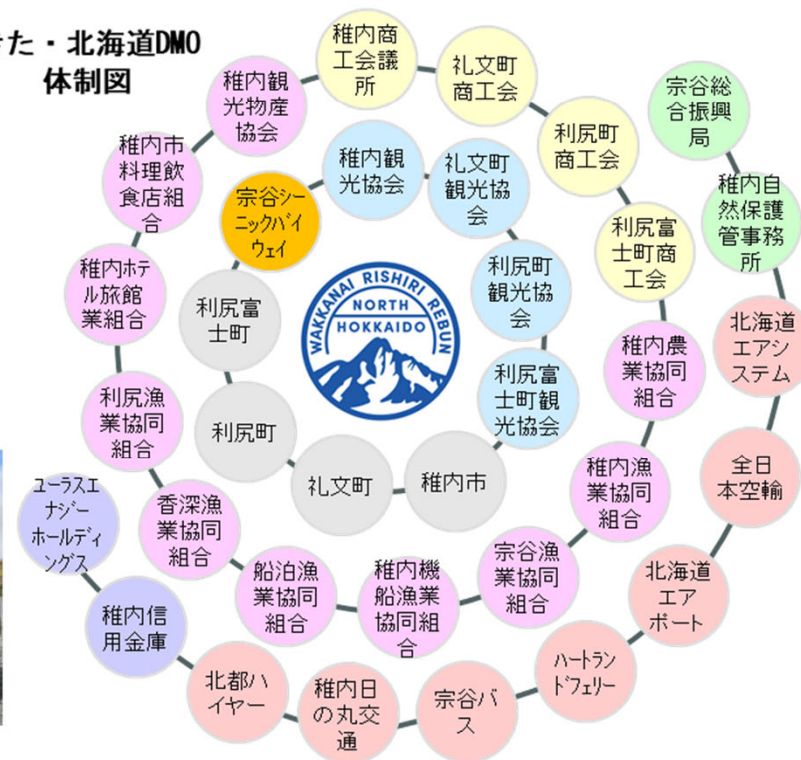
熊野古道 北九州への視察
令和4年11月



設立記念シンポジウムの開催
令和6年6月9日開催

②活動の体制

きた・北海道DMO
体制図



③PRポイント

活動当初は各エリアでお客さんを奪い合う意識もあり、なかなか「広域連携」自体の意識が定着しなかったが、観光協会長サミットを中心に、地道な活動を2007年から20年にわたり展開してきた。宗谷シーニックバイウェイがこれまでに積み上げてきた実績とノウハウを活かし、地域連携DMOの準備を進めることで、これまで築いてきた信頼関係を基盤に、DMOを中心とした広域連携の組織体を構築することができた。

●活動期間：平成17年度～

部門賞③ 魅力ある観光空間づくり部門候補〔エントリー 5件〕



Scenic Byway HOKKAIDO

No.	活動名【ルート名】	点数	評価意見
1	R334オオイトドリ刈る狩る作戦 【東オホーツク シーニックバイウェイ】	14	<ul style="list-style-type: none"> 冬の雪かき、夏のオオイトドリと名物ができそうでルートの年中行事化になりそう。成果も大きい活動のバイディングがさらに大きくなり強くなったという印象。 景観阻害物の除去、撤去の作業は地元の皆さんの地道な活動の上に成り立つものと理解しています。2月のガードレールの雪の除去作業と合わせ敬意を表したい。 植生管理を通じて眺望の回復だけでなく、安全性確保やヒグマ出没リスクの低減といった複合的な課題に取り組んでいる点に強く関心を持った。特にウトロ地区の入口である「カメ岩」周辺の視界確保は、観光の玄関口としての第一印象を左右する重要な要素であると感ずる。観光客が安心して滞在できる環境整備は、地域の信頼感醸成にも寄与すると実感している。地域住民の参加も継続されており、草の根からの観光空間づくりが着実に機能しているように思われた。 観光の目的である景観の確保のみならず、地域のホスピタリティを感じる取り組み。観光事業者等からの協賛金やファン等からの協力金等で持続可能な活動としてほしい。 地域の方々の地道な活動により秀逸な道の景観向上に具体的に寄与している。
2	ひがし北海道「より道」トクするQR 【釧路湿原・阿寒・摩周 シーニックバイウェイ】	16	<ul style="list-style-type: none"> 効果計測結果とメンテナンス体制についての言及がなかったのが残念。 地域内の情報共有や、詳細な情報の発信のツールとして、設置場所も増え関係者の努力に敬意を表します。アプリケーションの開発やSNSに連動した情報発信の仕組みづくりを期待します。 地域施設へのQRコード設置により、観光情報の多言語発信と即時性ある案内を実現しており、地方観光におけるDX導入の好事例と感じた。特に、従来通過されがちだったエリアへの立ち寄り促す点で、回遊性と滞在時間の向上に効果が期待できる。紙とデジタルの併用も、利用者層に応じた柔軟な対応として評価でき、今後の展開次第では訪問動態の可視化にも活用できると考える。 英語のインフラは必須。整備して終わりにならないきめ細かなサービス提供に期待したい。 情報提供の深化に向け、自動翻訳機能を積極的に活用し、英語だけではなく外国語による情報提供を行っている点が大きい評価できる。
3	魅力発信・情報発信プロジェクト 【札幌シーニックバイウェイ 藻岩山麓・定山渓ルート】	13	<ul style="list-style-type: none"> 新しい試みであり、動画という伝達性や共感性に優れた手段の活用は参考になりそうである。得られた種々のノウハウの共有・展開を期待したい。 多くの人がかかわるシーニックバイウェイの利点をさらに発展させた情報発信や交流を通じ、もう一つ上のステージに磨き上げる工夫を感じる。産官学連携など新たな展開に取り組み地域の資源をさらに深掘りする姿勢を評価する。 地域資源の価値を可視化し、「紙媒体+動画」という複層的な情報発信を試みている点が興味深かった。高齢者や若年層、異なる視点を持つ地域住民と学生が共に地域を見つめ直す過程そのものが、観光空間の再解釈に寄与しているように感じた。旅行会社としても、情報発信の方法に工夫を凝らした事例は非常に参考になり、「会いに行きたくなる場所」を生み出す力を感じる取り組みであった。 若い世代とともに新しい感性や技術を組み合わせた魅力発信の取り組みは面白い。どの程度の効果が発揮されるのか、追跡してほしい。 複数の世代にわたる共創モデルを展開し、多様な情報発信を行っている点が評価できる。 地域の魅力を「人の姿や声」により表現し、「顔の見える観光空間」を実現しようとするコンセプトを評価する。
4	地域資源を活用した共創による 魅力向上 【天塩川シーニックバイウェイ】	11	<ul style="list-style-type: none"> 盛りだくさんの活動やその商品化は高く評価できる。ただ、そのビジネスとしての成立性に関する記述がないのが残念である。 地域の賑わいを作る活動はエネルギーを要しますが、地域内で役割分担をしっかりとて、一つの目標に向かい進んでいくことが大事です。共創の意義やゴールを明確にし一層の賑わい創出を期待します。 道の駅の機能強化や景観活動、地域イベント（トリアスロン大会等）との連携により、面的な観光空間づくりが進められていると感じた。広域的な観光導線の中で、交通インフラや地域資源を組み合わせる視点は観光地経営にとって有効であり、交流人口・関係人口の拡大にもつながる可能性を感じている。 この活動の魅力は伝わるが、全体施策としてどのような方向に向かっているのかが伝わりにくい。交通インフラを起点としての魅力アップ策の総合化に期待したい。 種々の活動団体が連携し、トリアスロン国際大会を実現する等、地域に大きなインパクトをもたらしたイベントを展開している点が評価できる。 北海道新幹線の開業・木古内ICの開通を契機として、多岐に亘る地域活動により観光振興を図っている。
5	ひがし北海道の新しい旅のカたち づくり事業 【知床ねむる北太平洋 シーニックバイウェイ】	16	<ul style="list-style-type: none"> 難しい課題への挑戦であり実施したこと自体が評価できる。成果の規模が不明なのが残念である。 自動車以下の速度で地域を見ることの意義をしっかりと打ち出し、地域の資源のさらなる洗い出しを実施し移動そのものを楽しむコンテンツとして「モビリティ・ツーリズム」のビジネスモデルの構築を期待したい。 折りたたみ自転車と公共交通を活用した「モビリティ×体験」の試みは、地方観光における新しい選択肢の提示として高く評価できる。根室や厚岸といった周遊が難しかった地域に新たなアクセスルートを作ろうとする試行的取り組みには、観光業の立場としても大きな可能性を感じた。環境負荷を抑えながら滞在価値を高める観光の方向性として、今後の展開に注目している。 ねむるエコモビたび、最東端サイクリング認定証発行など、アウトプットが明確でかつ、取組への地域事業者が参加する様子が伝わる。エコモビ旅がどのようなものなのか、もう少し説明がほしい。 公共交通と（折り畳み）自転車を連携し、ユニークなプログラムを構築している点が評価できる。
6	鶴川沙流川サイクリングコース走行会 【日高シーニックバイウェイ】	対象外	<ul style="list-style-type: none"> ローカル色豊かな河川沿いの景観を活かし、住民主体で運営される走行会が継続されている点が素晴らしいと感じた。いわゆる「体験商品」としての完成度が高く、参加型イベントとしての魅力もある。観光の目的地としての地位確立というよりは、地域の生活文化や自然を“感じてもらう”観光空間の実現に寄与している点を高く評価したい。

活動名称 ひがし北海道の新しい旅のカタチづくり事業

エントリー部門 魅力ある観光空間づくり

ルート名称 知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ

①活動概要（目的・目標、具体的な取り組み等）

●活動の目的・目標：

- ・通年でのサイクリングやフットパス等の観光コンテンツの創出・検討
 - ・花咲線や路線バス等の地域公共交通の活用
- これらを通じて地域の観光資源を掘り起こし、広域連携による「新しい旅のカタチ」創出を図り、地域活性化を目的とする。

●活動内容：

- ・観光コンテンツの創出および試行、関係者との意見交換会等の実施

●活動期間：

令和元年度～ フットパスの維持管理、新規フットパスの試行、フットパスを活用したサイクリングの試行 など

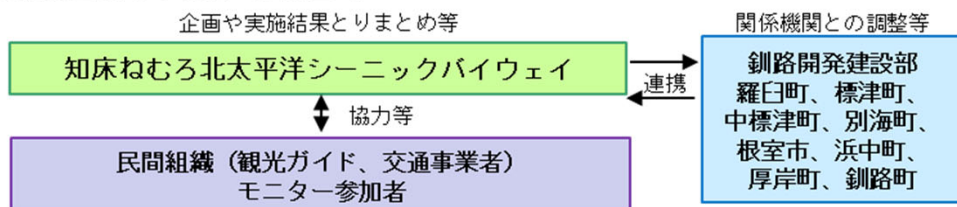
令和6年 6月30日 ねむろエコモビたび

令和6年12月 1日 レンタサイクル・日本本土最東端サイクリング認定証発行事業

令和7年 2月18日 冬季観光コンテンツ造成事業

②活動の体制

●活動団体、人数、体制図等



③PRポイント

【創意工夫した点や苦勞した点】

- ・鉄道や路線バスとの「輪行」がしやすい折りたたみ自転車を活用し、地域の観光資源と連携することで気軽にサイクリングが楽しめる仕組みを検討・試行。
- ・「本土最東端」というこの地域ならではの特性を活かしたコンテンツを構築。

【活動による効果】

- ・試行や意見交換会を通して、新たなコンテンツ造成案など、当該エリアの可能性を再認識でき、今後の継続した活動が見込まれる。

【令和6年度の活動概要】

- 6月30日 ～折りたたみ自転車×根室交通×JR花咲線×手ぶらでキャンプ＝ねむろエコモビたび～



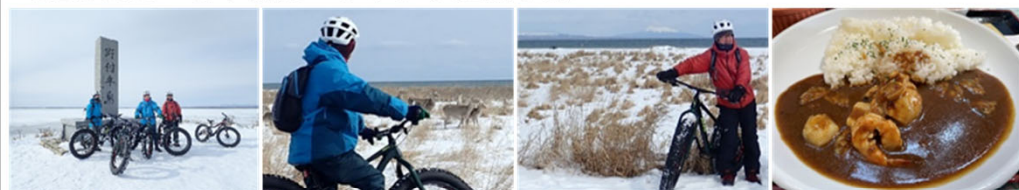
路線バス（根室駅～別海町奥行日）→サイクリング→手ぶらでキャンプ【昼食：BBQ】→サイクリング→JR花咲線（厚床駅～根室駅）

- 12月1日 レンタサイクル・日本本土最東端サイクリング認定証発行事業



サイクリング（根室駅～納沙布岬）→ノツカマップ灯台・ヨンネモトチャシなどに立ち寄り本土最東端納沙布岬へ→路線バス（納沙布岬～根室駅）

- 2月18日 冬季観光コンテンツ造成事業



別海町 野付半島サイクリング（根室海峡、野付湾、水平線、シカなどの野生動物、国後島を眺めながらライド、野付半島ネイチャーセンターで昼食）



標津町 ポー川史跡自然公園スノーシュートレッキング（ポー川、標津湿原、復元された竪穴式住居等の史跡を巡るトレッキング）

▼活動団体賞〔エントリー14件〕

ひがし北海道の新しい旅のカタチづくり事業

【知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ】

▼部門賞

①美しい景観づくり部門賞〔エントリー2件〕

地域連携によるビューポイント魅力アッププロジェクト

【支笏洞爺ニセコルート】

②活力ある地域づくり部門賞〔エントリー6件〕

シーニックバイウェイの広域連携をベースとした地域連携DMOの設立

【宗谷シーニックバイウェイ】

③魅力ある観光空間づくり部門賞〔エントリー5件〕

ひがし北海道「より道」トクするQR

【釧路湿原・阿寒・摩周シーニックバイウェイ】

ひがし北海道の新しい旅のカタチづくり事業

【知床ねむろ北太平洋シーニックバイウェイ】

▼最優秀賞「ベスト・シーニックバイウェイズ・プロジェクト」 アドバイザー会議から次のプロジェクトが推薦

シーニックバイウェイの広域連携をベースとした 地域連携DMOの設立 【宗谷シーニックバイウェイ】

■選出理由及び今後の発展に向けての期待

- ・地理的に分散する宗谷地域において、十数年にわたり信頼関係を構築し、持続的な広域連携体制を確立した点を高く評価する。
- ・ルート活動を基盤に「地域連携DMO」を設立し、取組を地域経営レベルへ昇華させた点が象徴的成果である。
- ・観光・産業・地域振興施策を横断的に束ねるハブ機能を担う体制を構築し、地域全体の推進力を高めることにつながった。
- ・広域と個別地域の間スケールに位置する「地域連携DMO」モデルとして、他地域への波及が期待される先導的事例である。
- ・シーニックバイウェイ20年の成果を結実させるとともに、今後の世代継承・持続的地域経営の基盤を築いた取組である。